

この世の中には様々な主張が溢れています。インターネットの発達により、メディア関係者や、専門家以外に一般の方々も自ら発信できるようになりました。多くの方々の声を知って頂き、その声を何らかのアクションに繋げるという良い面がある一方、場合によっては、異なる主張のぶつかり合いがおこります。中には他の主張を許すことが出来なかったり、一切耳を貸さない方もいて、大きな事件、争いの元となる場合も少なくありません。

『スッタニパータ』というお経の中にこのような言葉があります・・・。

かれらは自分の教えを「完全である」と称し、
他人の教えを「下劣である」という。
かれらはこのように互いにとらわれた見解で論争し、
自分の仮説を「真理である」と説く。

お釈迦さまの生きた時代、インドでは様々な信仰、思想、宗教が生まれた時代だったようです。多くの人々が自分の教えが完全であり、他を認めないで非難をしている、そんな様子をお釈迦さまはどのような気持ちで見えていたのでしょうか。

『スッタニパータ』は、このように続きます・・・。

自らの考えに固執して、「これのみが真理である」とする人々、
——かれらはすべて他人からの非難を招く。
また、それについて一部の人々から、称賛を博するだけである。

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

たとえ称賛を得たとしても、それは僅かなものであって、平安を得ることができない。論争の結果は、称賛と非難との二つだけである・・・、とわたしは説く。

この道理を見ても、汝らは、自らの考えに固執せず論争をしないという境地を安穩であると観じて、論争をしてはならない。

自らが正しいと主張するのみで他者の意見に耳を傾けない事で、対話の断絶が生まれます。また、自らが正しいという事に執着して「自分」という存在を絶対化してしまう妄想にとらわれてしまえば、言い争いは止まず、心は常に落ち着くことはありません。

論争をしないで生きる事は難しいのかもしれませんが、相手も異なった主張があり、同じようにそれが正しいと思っているという事を思い、対話を通して相手を知ることも大切です。そして、論争は時として争い、憎しみを生んでしまうという事を充分認識して、相手、他者と向き合う事が大切なのではないのでしょうか。

— 終 —